2019.06.16『埼玉新聞』関東高校陸上

（第3種郵便物認可）
埼玉新聞スポーツ

北関東高校陸上

女子円盤投げ 稲垣（平）（昌）が初制覇

男子100 設楽（西武文理）、男子400H 金井（平）（昌）初優勝

（第2日、15日・茨城県笠松運動公園陸上競技場）

男女計11種目の決勝などが行われ、県勢は7種目で頂点に立った。

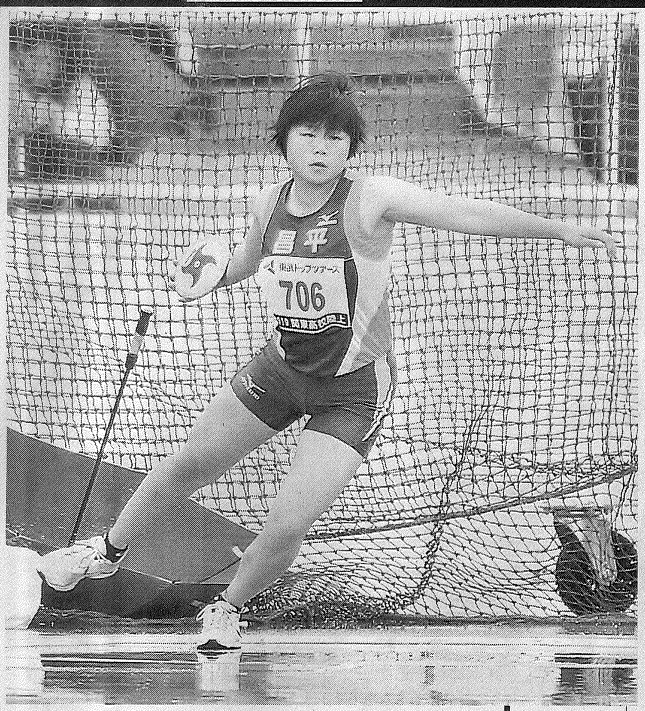
女子円盤投げは稲垣憂衣（昌平）が6投目に37㍍67をマークし、逆転で初優勝に輝いた。男子100㍍は設楽王我（西武文理）が10秒51で初の栄冠を獲得。同5000㍍は唐沢拓海（花咲徳栄）が14分29秒37で初制覇し、前日の1500㍍との2冠を達成した。

男子400㍍障害は金井嘉哉（昌平）が54秒87で初優勝。同ハンマー投げは岡田大輝（進修館）が57㍍35で、同八種競技は金子柊也（昌平）が5260点でそれぞれ制し、女子100㍍は宮武アビーダラリー（大宮東）が追い風参考ながら11秒86で初の頂点に立った。

各種目の上位6人（女子棒高跳び、三段跳び、ハンマー投げ、男女競歩は4位まで、男女混成は3位までと4～6位の全国記録上位5人までが、全国高校総体（8月4～8日・沖縄）に出場する。（記録は埼玉関係）

【男子】
▽100㍍ ①設楽王我（西武文理）10秒51④吉本（伊奈学園）10秒63⑤鈴木碧（大宮北）10秒64
▽5000㍍ ①唐沢拓海（花咲徳栄）14分29秒37③久保田（聖望学園）14分37秒65
▽400㍍障害 ①金井嘉哉（昌平）54秒87②中井（深谷一）55秒76④森（大宮東）55秒97
▽400㍍リレー ②西武文理（埼玉）42秒02
▽ハンマー投げ ①岡田大輝（進修館）57㍍35
▽八種競技 ①金子柊也（昌平）5260点（100㍍11秒64、走り幅跳び6㍍75、砲丸投げ10㍍46、400㍍51秒95、110㍍障害15秒22、やり投げ43㍍59、走り高跳び1㍍76、1500㍍4分47秒62点）⑥清水（花咲徳栄）4762点

【女子】
▽100㍍ ①宮武アビーダラリー（大宮東）11秒86②佐藤（星野）11秒95③鈴木（埼玉栄）11秒97＝以上追い風参考
▽1500㍍ ②吉井（本庄東）4分35秒76③四元（昌平）4分35秒84
▽400㍍障害 ②塩味（埼玉栄）1分2秒24③大野（大宮東）1分3秒01④石沢（昌平）1分3秒15⑤小川（国際学院）1分4秒30⑥竹内（草加）1分5秒00
▽400㍍リレー ②埼玉栄47秒26
▽円盤投げ ①稲垣憂衣（昌平）37㍍67



女子円盤投げ決勝 37㍍67で初優勝に輝いた昌平・稲垣憂衣（石井大輔撮影）

感謝示す逆転の一投

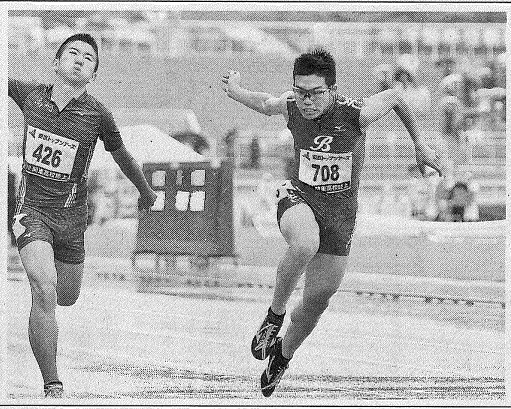
低い弾道の円盤が雨のカーテンを切り裂いた。女子円盤投げは、6投目に逆転した稲垣が初の栄冠を獲得。「優勝できたから、結果には満足です」と笑みがこぼれた。

5投を終え、4番手。見せ場は最終6投目だ。「スピードが乗っていたし、引っかかったので、いい感じだった」といつもよりも弾道を抑えた一投で上位3人をごぼう抜きにした。今月2日に川口の記録会でマークした37㍍69のベストには2㍍及ばなかったが、雨だったこと、スパイクではなくシューズで臨んだことを考えれば価値がある。

6投目の直前。「普段の練習通り」を意識するとともに、円盤に込めたのは感謝の思いだった。

ランキング1位で挑んだ昨年の県新人大会で惨敗。ここから気持ちが落ちてしまい、「冬季練習はずっと泣いていた」。支えてくれたのは長谷監督や仲間、家族だった。練習で一本投げては出来が悪いと新人大会の悪夢を思い出し自信を失っていたが、ポジティブな声掛けに何度も何度も励まされた。だからこそ、優勝が決まった瞬間は「自然と涙が出てきちゃった」。

高校総体が行われるタビック沖総ひやごんスタジアムはこれまで2度、チームの合宿で訪れ実際に投げたことのある思い出の地。「必ずプラスになる。目標の45㍍を投げて入賞したい」。自信を取り戻したヒロインは、力強く初舞台を見据えた。（石井大輔）



男子100㍍決勝 10秒51で初優勝を飾った西武文理・設楽王我（708）

気合入れ直し接戦制す

決勝前に気合を入れ直した埼玉短距離界のエースが意地を見せた。男子100㍍は設楽が10秒51で初優勝。「持ち味を出せなかった。寒くて、思うような動きではなかった」と言うものの、ゴール前の接戦をきっちりと制するあたりは貫禄だ。

勝負には勝ったが、自身の課題は十分に自覚している。苦手な前半を改善し、得意な後半をさらに伸ばすことが、全国の頂点を目指す高校総体への鍵になるだろう。「大幅にベストを更新したい。10秒20が目標」と気持ちを新たにした。

敵なしの2冠 みなぎる自信

男子5000 唐沢

自信がみなぎる走りで堂々の2冠達成だ。男子5000㍍は唐沢が得意のロングスパートを決め初優勝。前日の1500㍍に続くタイトルに、「2冠が取れ素直にうれしい」と端正な顔を緩めた。

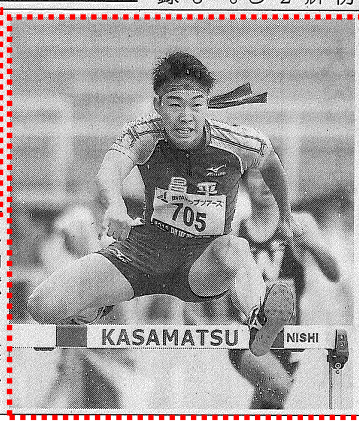
入り1000㍍が3分かかった時点で記録は諦め、「勝ちにこだわった」。序盤は中段で進めて徐々に前方へ進出すると、残り600㍍を切ったところで、2番手から満を持して抜け出しした。強いのひと言だ。活躍が期待される高校総体へ、「5000㍍の方が得意。8位入賞を目指したい」と意欲に満ちている。

持ち味存分に圧勝

男子400㍍障害は金井がつれいしい初優勝。雨と風が強まる中でのレースとなったが、前半から飛ばす持ち味を存分に発揮し、2位に1秒近い差をつけて圧勝。「この天気の中では良かったと思う」と及第点を与えた。

昨年10月の関東新人大会を制した実力者。冬場に右足首を痛めて苦しんだ時期もあったが、徐々に練習を積めるようになり、状態は確実に上向きだ。「もっと前半からいけるように。スピードが落ちないようにしたい」と武器にさらなる磨きを掛け、真夏の戦いに挑む。

男子400㍍障害決勝 54秒87で初の頂点に立った昌平・金井嘉哉



総体で県高校新

男子八種競技で初優勝

した金子柊也（5260点）5400点以上が目標だったので満足はしてない。高校総体では昌平OBの北村先輩が持っている5597点の県高校記録を更新したい

違う力みが出た

男子ハンマー投げで初優勝した岡田大輝

「天候面で体が動かない中、いつもと違う力みが出て、納得できる投げではなかった。修正する部分は特にないので、今やっていることをどんな場面でも出したい」

伸び伸び走れた

女子100㍍で初優勝した宮武アビーダラリー

「スタートはうまく切れなかったが、前半から加速でき得意の後半も伸び伸び走れた。（200㍍へ）前半から出られるように。県大会の課題を意識して走る」